

平成29年度 全国学力・学習状況調査

調査結果のポイントについて

～北海道（公立）における調査結果～

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	2
■ 教科に関する調査	
■ 児童生徒質問紙調査	
■ 学校質問紙調査	
3. 教科に関する調査	
■ 小学校〈国語・算数〉	4
■ 中学校〈国語・数学〉	12
■ 過去の同一問題との比較	22
4. 質問紙調査	
■ 「2. 結果の概要」で示した項目	23
■ その他	
・主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する取組状況、学習評価の在り方	27
・カリキュラム・マネジメントに関する取組状況	37
・教職員の資質能力の向上	38
・挑戦心、達成感、規範意識、自己肯定感等	39
・学習に対する関心・意欲・態度（国語、算数・数学）	42
・学校生活等	42
・地域や社会、外国に対する興味・関心	43
・小学校教育と中学校教育の連携	43
5. 質問紙と学力のクロス分析	44
【参考】札幌市を除く北海道の調査結果	46

1. 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

3 調査の内容

- ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（A）
 - ・主として「活用」に関する問題（B）
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査の実施日

平成29年4月18日（火）

6 平成29年4月18日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,043	971(93.1%)	35,802	小学校	19,577	19,456(99.4%)	999,723
中学校	598	559(93.5%)	37,265	中学校	9,628	9,539(99.1%)	982,811
合計	1,641	1,530(93.2%)	73,067	合計	29,205	28,995(99.3%)	1,982,534

※ 札幌市を含む

※ 小学校には義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部を、中学校には義務教育学校後期課程、中等教育学校及び特別支援学校中学部を含む

※ 調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数(校)に含まれていない

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値*1、標準偏差*2等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに道教委が独自に算出した小数値（速報値）で示している。

*1 中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

*2 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

- 平均正答率の小数值での比較
 - ・小・中学校のすべての教科で全国を下回っている。
 - ・昨年度と比べて、全国との差が、小学校国語A、国語B、算数A、算数B、中学校国語Bの5教科で縮まり、中学校国語A、数学A、数学Bの3教科で広がった。
 - ・小学校は、すべての教科で全国との差が2.4ポイント（昨年度2.7ポイント）以内
 - ・中学校は、すべての教科で全国との差が1.2ポイント（昨年度1.5ポイント）以内
- 平均正答率の整数値での比較
 - ・中学校国語A及び国語Bの2教科は全国と同じ。

各教科の平均正答率

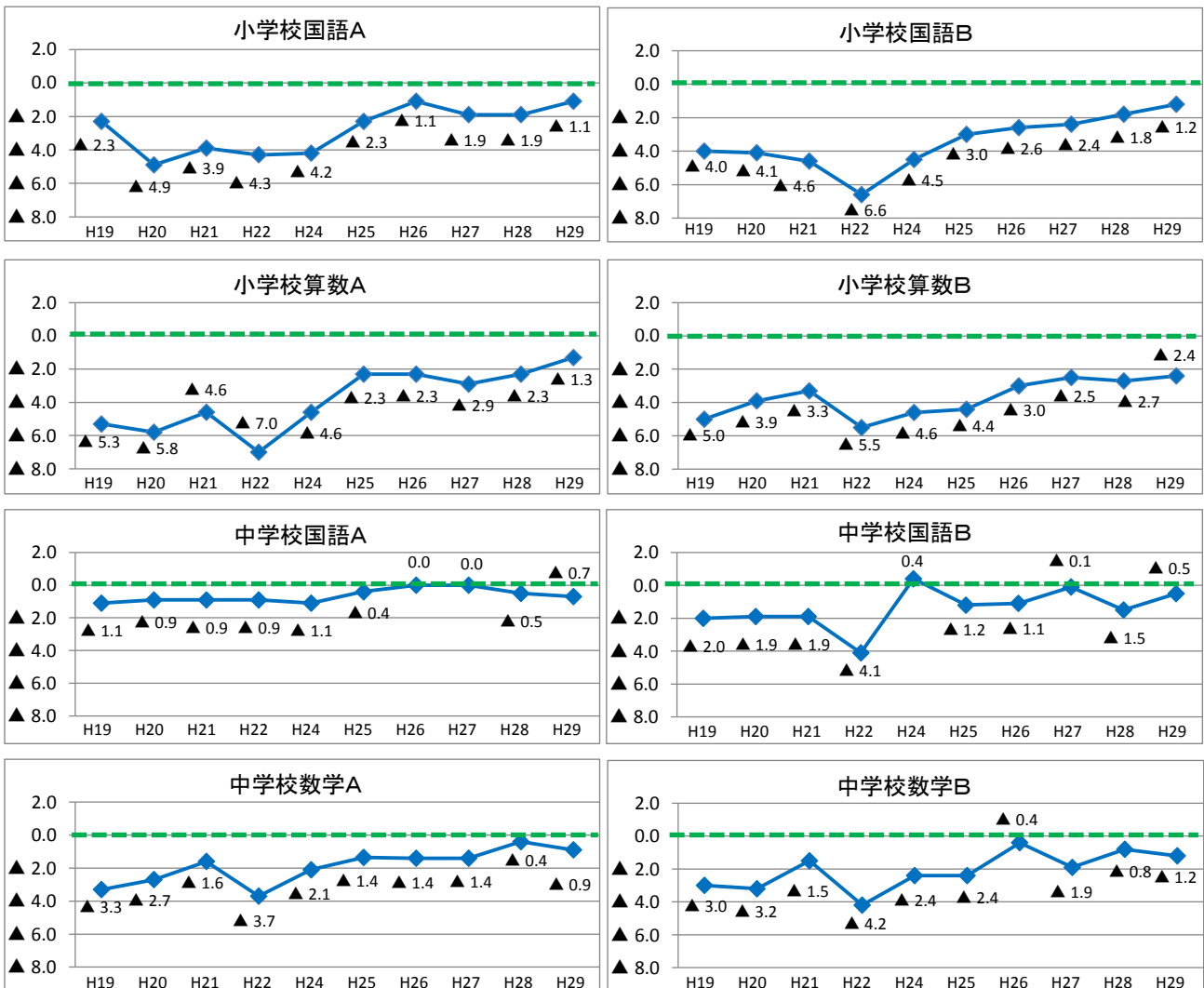
		小学校				中学校			
		国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
平均正答率 (%)	道	74[73.7] (71.0)	56[56.3] (56.0)	77[77.3] (75.3)	44[43.5] (44.5)	77[76.7] (75.1)	72[71.7] (65.0)	64[63.7] (61.8)	47[46.9] (43.3)
	国	75[74.8] (72.9)	58[57.5] (57.8)	79[78.6] (77.6)	46[45.9] (47.2)	77[77.4] (75.6)	72[72.2] (66.5)	65[64.6] (62.2)	48[48.1] (44.1)
平均正答数 (問)	道	11.1/15 (10.7/15)	5.1/9 (5.6/10)	11.6/15 (12.0/16)	4.8/11 (5.8/13)	24.5/32 (24.8/33)	6.5/9 (5.8/9)	22.9/36 (22.2/36)	7.0/15 (6.5/15)
	国	11.2/15 (10.9/15)	5.2/9 (5.8/10)	11.8/15 (12.4/16)	5.1/11 (6.1/13)	24.8/32 (25.0/33)	6.5/9 (6.0/9)	23.3/36 (22.4/36)	7.2/15 (6.6/15)

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値【国から提供されたデータをもとに道教委が独自に算出した小数值（速報値）】

※ 国の平均正答率：国が公表した整数値【国が公表した小数值】

※ () は平成28年度

全国と北海道の平均正答率の差



※ H19～H21、H25～H29は悉皆調査で実施

※ H23は、震災の影響で国は従来の調査としての実施を見送り、道独自で調査を行ったことから、国との比較ができないため非掲載

※ 数値は、「北海道(公立)の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差で算出

■ 児童生徒質問紙調査(グラフはP23～P25に掲載)

() 内は質問番号

- 国語の授業の内容がよく分かる児童生徒の割合は、小学校で82.2%、中学校で76.9%であり、昨年度と比べて、小学校、中学校とも1.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で同じ、中学校で2.0ポイント高い。(小71、中73)
- 算数・数学の授業の内容がよく分かる児童生徒の割合は、小学校で77.9%、中学校で68.9%であり、昨年度と比べて、小学校で0.1ポイント、中学校で1.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.7ポイント、中学校で0.5ポイント低い。(小80、中82)
- 家で、自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合は、小学校で65.4%、中学校で51.2%であり、昨年度と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で3.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.9ポイント高く、中学校で0.3ポイント低い。(小29、中31)
- 普段、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で57.1%、中学校で64.2%であり、昨年度と比べて、小学校、中学校とも2.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で7.3ポイント、中学校で5.4ポイント低い。(小15、中15)
- 普段、1日当たり3時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたり(勉強のためのテレビやビデオ・DVD、テレビゲーム除く)する児童生徒の割合は、小学校で36.0%、中学校で27.5%であり、昨年度と比べて、小学校で0.5ポイント低く、中学校で1.7ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.3ポイント、中学校で2.2ポイント高い。(小12、中12)
- 普段、1日当たり3時間以上、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム含む)をする児童生徒の割合は、小学校で22.7%、中学校で25.9%であり、昨年度と比べて、小学校で1.5ポイント、中学校で2.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で5.1ポイント、中学校で4.5ポイント高い。(小13、中13)
- 普段、1日当たり3時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネット(携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム除く)をする児童生徒の割合は、小学校で9.5%、中学校で22.4%であり、昨年度と比べて、小学校で1.4ポイント、中学校で1.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.5ポイント、中学校で4.3ポイント高い。(小14、中14)

■ 学校質問紙調査(グラフはP25～P27に掲載)

() 内は質問番号

- 国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を「よく与えた」学校の割合は、小学校で81.9%、中学校で45.4%であり、昨年度と比べて、小学校で0.4ポイント、中学校で0.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で5.4ポイント、中学校で7.7ポイント低い。(小90、中88)
- 算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を「よく与えた」学校の割合は、小学校で83.9%、中学校で56.0%であり、昨年度と比べて、小学校で0.3ポイント低く、中学校で2.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.4ポイント、中学校で0.8ポイント低い。(小92、中90)
- 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持の徹底を「よく行った」学校の割合は、小学校で67.7%、中学校で73.7%であり、昨年度と比べて、小学校で2.2ポイント、中学校で1.9ポイント高い。全国と比べて、小学校で6.8ポイント、中学校で5.4ポイント高い。(小48、中48)
- 授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書く指導を「よく行った」学校の割合は、小学校で71.8%、中学校で43.8%であり、昨年度と比べて、小学校、中学校とも5.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.8ポイント高く、中学校で0.2ポイント低い。(小38、中38)
- 授業の中で目標を児童生徒に示す活動を計画的に「よく行った」学校の割合は、小学校で71.9%、中学校で61.9%であり、昨年度と比べて、小学校で3.2ポイント、中学校で5.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.3ポイント、中学校で3.5ポイント低い。(小33、中33)
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に「よく行った」学校の割合は、小学校で55.6%、中学校で48.1%であり、昨年度と比べて、小学校で0.8ポイント、中学校で4.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.1ポイント、中学校で4.9ポイント高い。(小34、中34)

3. 教科に関する調査

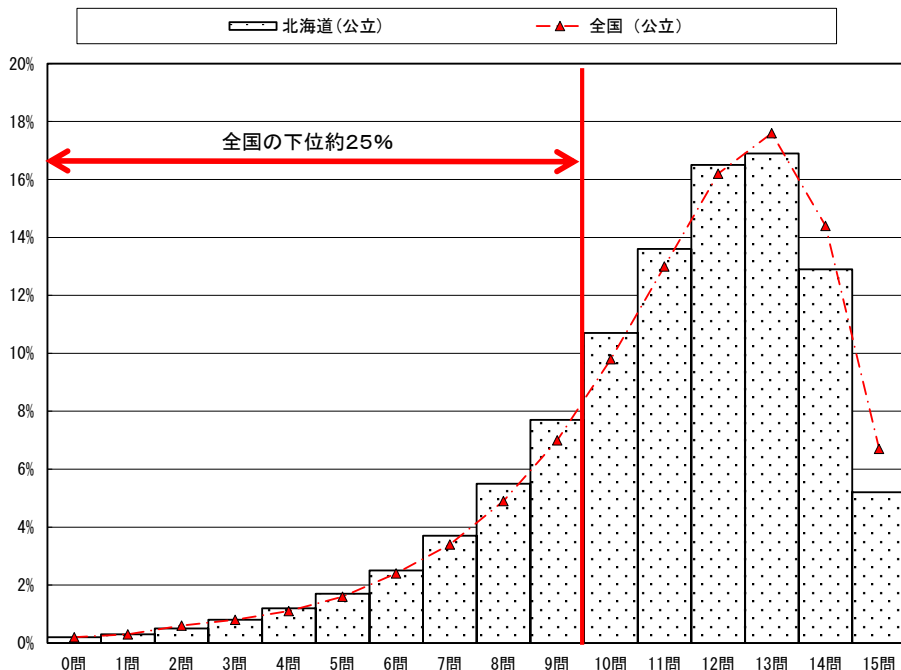
■ 小学校国語A

【概要】

- 平均正答率は73.7%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.9ポイント（H28）から-1.1ポイントに縮まった。

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	35,797	11.1 / 15	74 [73.7]	12.0	2.7
全国（公立）	999,683	11.2 / 15	75 [74.8]	12.0	2.8

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	0.2	0.2
1問（6.7%）	0.3	0.3
2問（13.3%）	0.5	0.6
3問（20.0%）	0.8	0.8
4問（26.7%）	1.2	1.1
5問（33.3%）	1.7	1.6
6問（40.0%）	2.5	2.4
7問（46.7%）	3.7	3.4
8問（53.3%）	5.5	4.9
9問（60.0%）	7.7	7.0
10問（66.7%）	10.7	9.8
11問（73.3%）	13.6	13.0
12問（80.0%）	16.5	16.2
13問（86.7%）	16.9	17.6
14問（93.3%）	12.9	14.4
15問（100.0%）	5.2	6.7



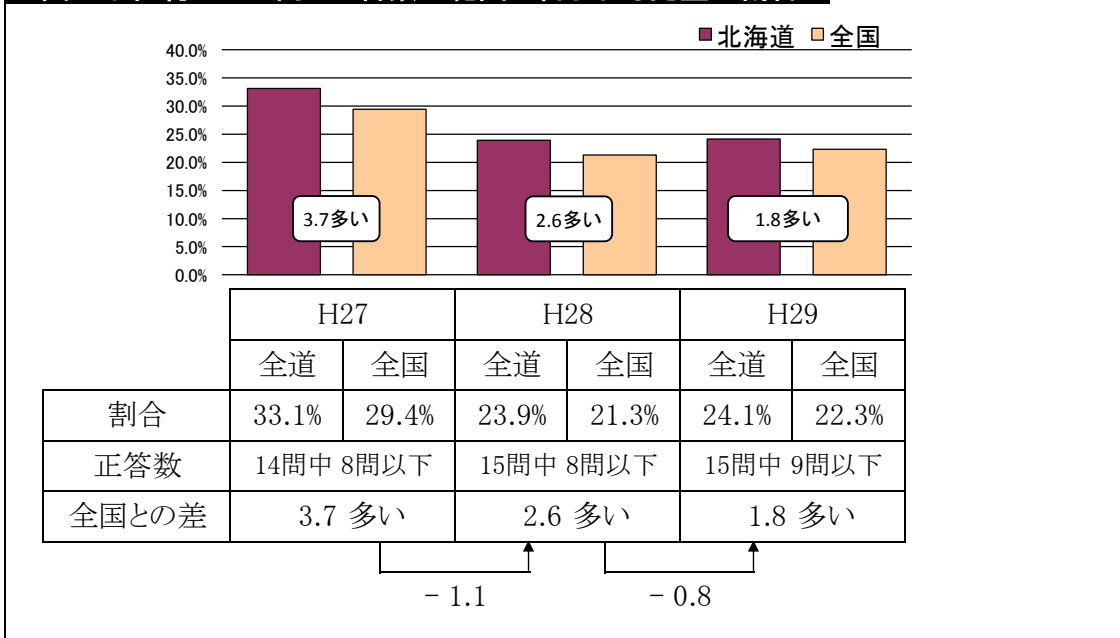
9問以下の割合	24.1	22.3
---------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、9問以下の正答数（正答率は60%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

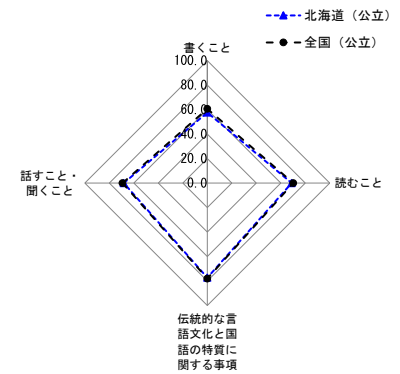


問題別調査結果 [小学校・国語A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道（公立） 971	全国（公立） 19,456	対象児童数	北海道（公立） 35,797	全国（公立） 999,683		
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)				
			北海道（公立）	全国（公立）			
全体					15	74 [73.7]	75 [74.8]
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	68.2	69.2			
	書くこと	2	57.6	60.6			
	読むこと	3	68.9	70.2			
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	77.3	78.0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0					
	話す・聞く能力	1	68.2	69.2			
	書く能力	2	57.6	60.6			
	読む能力	3	68.9	70.2			
	言語についての知識・理解・技能	11	77.3	78.0			
問題形式	選択式	9	70.4	71.7			
	短答式	6	78.7	79.4			
	記述式	0					

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）
1	学級文集のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選択する	互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う	3・4オ					○			○			68.2	69.2	0.1	0.1
2一	お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	5・6ウ					○			○			79.0	79.7	0.1	0.1
2二	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する	手紙の構成を理解し、後付けを書く	5・6イ					○			○			36.2	41.5	0.2	0.3
3	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む			3・4イ				○		○			72.8	74.4	0.5	0.5
4一	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える			5・6エ	3・4ア(フ)			○	○	○			77.9	79.4	0.4	0.5
4二	グループの話し合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する				5・6エ	3・4ア(フ)			○	○	○			56.0	57.0	0.7	0.7
5ア	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する(三度目の正直)	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる				3・4ア(イ)				○	○			89.8	90.0	0.7	0.8
5イ	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する(もちはもち屋)					3・4ア(イ)				○	○			83.4	83.6	0.9	1.0
6	【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する	古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む				5・6ア(フ)				○	○			70.8	71.1	1.5	1.6
7(1)	漢字を書く(参加たいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				5・6ウ(フ)					○	○		39.1	42.0	12.7	10.6
7(2)	漢字を書く(4年生のきぼう者)					5・6ウ(フ)					○	○		74.8	80.0	5.4	4.6
7(3)	漢字を読む(申し込み期限)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				5・6ウ(フ)					○	○		95.4	94.5	2.4	3.0
7(4)	漢字を読む(事務室前)					5・6ウ(フ)					○	○		89.0	88.8	2.4	3.0
7(5)	漢字を書く(箱が空いています)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				5・6ウ(フ)					○	○		78.5	76.8	11.0	11.8
7(6)	漢字を読む(指示)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				5・6ウ(フ)					○	○		95.0	94.5	2.4	2.9

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H27	H28	H29
平均正答率が全国以上の問題数	3/14問	3/15問	4/15問
無解答率が全国以下の問題数	9/14問	7/15問	13/15問
無解答率が5%以上の問題数	4/14問	7/15問	3/15問

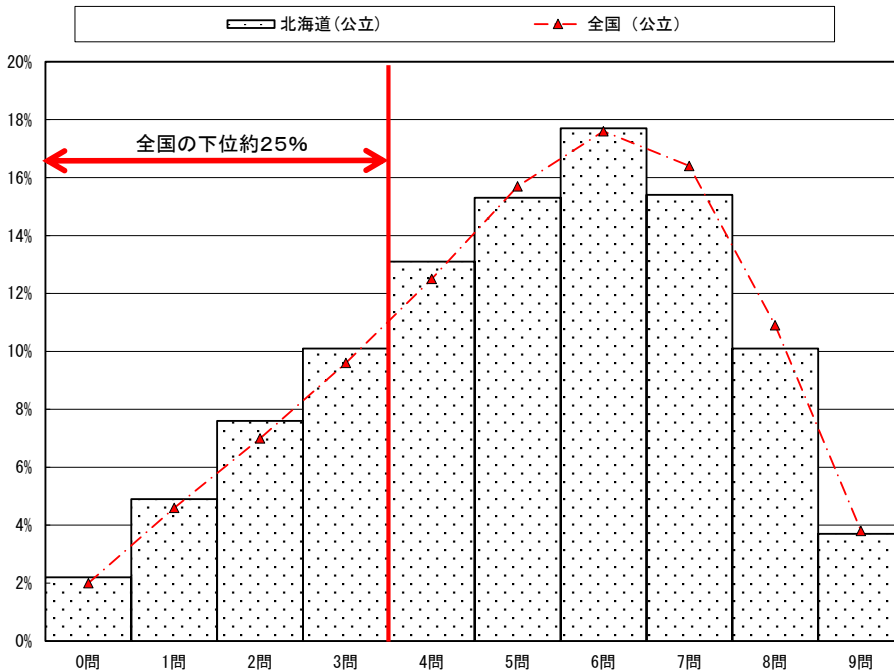
■ 小学校国語B

【概要】

- 平均正答率は56.3%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.8ポイント（H28）から-1.2ポイントに縮まった。

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	35,791	5.1 / 9	56 [56.3]	5.0	2.2
全国（公立）	999,498	5.2 / 9	58 [57.5]	5.0	2.2

正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	2.2	2.0
1問（11.1%）	4.9	4.6
2問（22.2%）	7.6	7.0
3問（33.3%）	10.1	9.6
4問（44.4%）	13.1	12.5
5問（55.6%）	15.3	15.7
6問（66.7%）	17.7	17.6
7問（77.8%）	15.4	16.4
8問（88.9%）	10.1	10.9
9問（100.0%）	3.7	3.8



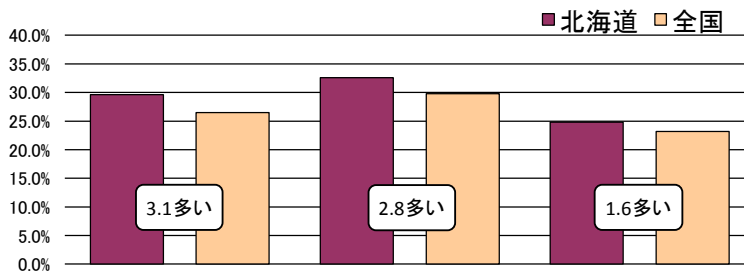
3問以下の割合	24.8	23.2
---------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、3問以下の正答数（正答率は33.3%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



	H27		H28		H29	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	29.6%	26.5%	32.6%	29.8%	24.8%	23.2%
正答数	9問中 4問以下		10問中 4問以下		9問中 3問以下	
全国との差	3.1 多い		2.8 多い		1.6 多い	

- 0.3

- 1.2

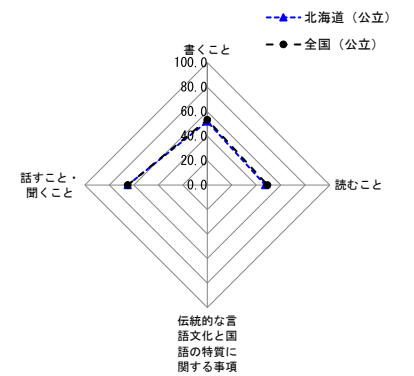
問題別調査結果 [小学校・国語B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	971	19,456		35,791	999,498

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
			北海道（公立）	全国（公立）
全体				
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	65.0	64.9
	書くこと	5	51.9	53.4
	読むこと	3	47.3	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	40.8	41.7
	話す・聞く能力	3	65.0	64.9
	書く能力	5	51.9	53.4
	読む能力	3	47.3	49.2
	言語についての知識・理解・技能	0		
問題形式	選択式	5	63.0	64.6
	短答式	1	69.1	69.2
	記述式	3	40.8	41.7

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）
1一	スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として、適切なものを選択する	動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す	5・6 イ								○			77.9	77.2	0.4	0.5
1二	グループの話し合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える	5・6 イ								○			69.1	69.2	4.3	3.8
1三	折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す	5・6 イ	5・6 ウ			○	○	○			○	48.1	48.4	3.0	2.6	
2一	【緑のカーテン作りへの協力をお願いします】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える		5・6 イ							○			68.2	70.8	0.6	0.7
2二	【友達の手紙】と同じ考えの人を説得するために引用する文章を、【『緑のカーテンを始めよう』の一部】から選択する	目的や意図に応じ、引用して書く		5・6 エ							○			68.7	70.9	3.6	3.2
2三	「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の【イ】に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く		5・6 ウ			○		○			○	32.8	33.0	3.3	2.8	
3一	「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、【A】に当てはまる言葉として適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える			5・6 エ						○			72.8	75.9	2.7	2.6
3二	「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える			5・6 オ						○			27.7	28.0	3.4	3.2
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる		5・6 ウ	5・6 エ		○	○	○			○	41.6	43.7	23.0	19.4	

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

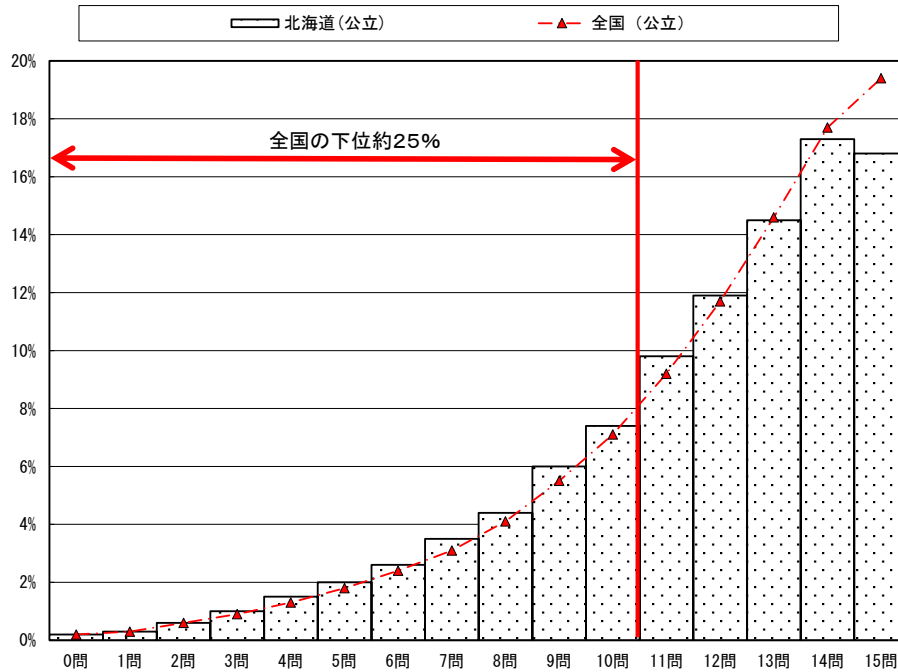
	H27	H28	H29
平均正答率が全国以上の問題数	0/9問	0/10問	1/9問
無解答率が全国以下の問題数	0/9問	2/10問	2/9問
無解答率が5%以上の問題数	6/9問	4/10問	1/9問

■ 小学校算数A

【概要】

- 平均正答率は77.3%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.3ポイント（H28）から-1.3ポイントに縮まった。

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	35,802	11.6 / 15	77.7 [77.3]	12.0	3.1
全国（公立）	999,723	11.8 / 15	79 [78.6]	13.0	3.1



正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	0.2	0.2
1問（6.7%）	0.3	0.3
2問（13.3%）	0.6	0.6
3問（20.0%）	1.0	0.9
4問（26.7%）	1.5	1.3
5問（33.3%）	2.0	1.8
6問（40.0%）	2.6	2.4
7問（46.7%）	3.5	3.1
8問（53.3%）	4.4	4.1
9問（60.0%）	6.0	5.5
10問（66.7%）	7.4	7.1
11問（73.3%）	9.8	9.2
12問（80.0%）	11.9	11.7
13問（86.7%）	14.5	14.6
14問（93.3%）	17.3	17.7
15問（100.0%）	16.8	19.4

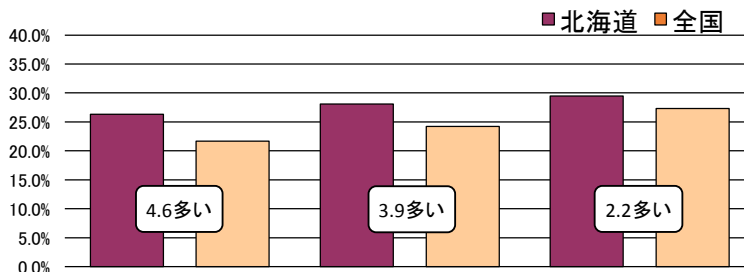
10問以下の割合	29.5	27.3
----------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、10問以下の正答数（正答率は66.7%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



	H27		H28		H29	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	26.3%	21.7%	28.1%	24.2%	29.5%	27.3%
正答数	16問中9問以下		16問中10問以下		15問中10問以下	
全国との差	4.6 多い		3.9 多い		2.2 多い	

- 0.7

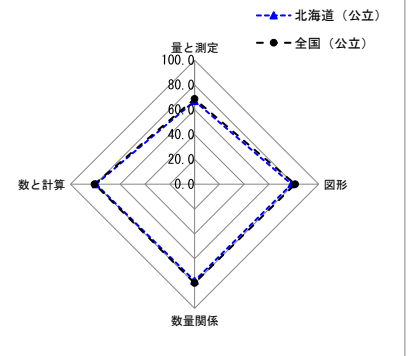
- 1.7

問題別調査結果 [小学校・算数A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)
	971	19,455		35,802	999,723
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体			15	77 [77.3]	79 [78.6]
学習指導要領の領域	数と計算	8	79.5	80.6	
	量と測定	2	67.1	68.8	
	図形	2	78.2	81.1	
	数量関係	5	77.9	79.6	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	8	76.3	77.7	
	数量や図形についての知識・理解	7	78.4	79.7	
問題形式	選択式	7	79.0	79.6	
	短答式	8	75.7	77.8	
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
1(1)	リボンを2m買ったときの代金と3m買ったときの代金を書く	具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	3A(3)イ			5D(1)ア									96.9	96.9	0.5	0.4
1(2)	買ったリボンの長さ、1m当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる	5A(3)ア												71.9	69.9	1.7	1.8
1(3)	60×0.4を、60×4を基にして考えるときの、正しい積の求め方を選ぶ	小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解している	5A(3)イ												89.8	91.0	0.7	0.7
2(1)	123×52を計算する	整数の乗法の計算をすることができる	3A(3)イ												84.9	85.2	0.4	0.5
2(2)	10.3+4を計算する	小数と整数の加法の計算をすることができる	4A(5)イ												79.3	79.7	0.4	0.4
2(3)	6+0.5×2を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	4A(5)ウ			4D(2)ア									60.0	66.6	0.6	0.6
2(4)	5÷9の商を分数で表す	商を分数で表すことができる	5A(4)イ												67.1	69.2	4.2	3.9
3	8と12の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5A(1)イ												86.5	86.2	1.4	1.2
4	重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ	任意単位による測定について理解している		18(1)アイ		38(1)イ									68.8	70.7	0.6	0.6
5	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ	高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している				5B(1)ア									65.5	67.0	1.2	1.3
6	円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く	正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している				5C(1)アウ									70.4	75.5	2.9	2.3
7	立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ	立方体の面と面の位置関係を理解している				4C(2)アイ									85.9	86.7	1.0	1.0
8	はじめに持っていたシールの枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	未知の数量を表す口を用いて、問題場面を除法の式に表すことができる				3D(2)イ									83.3	83.6	1.5	1.4
9(1)	出席番号1番の人は二次表のどこに入るかを選ぶ	資料を二次表に分類整理することができる				4D(4)ア									88.2	88.0	2.6	2.6
9(2)	二次表の合計欄に入る数を書く	資料から、二次表の合計欄に入る数を求めることができる				4D(4)ア									60.9	62.8	5.3	5.1

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H27	H28	H29
平均正答率が全国以上の問題数	2/16問	2/16問	4/15問
無解答率が全国以下の問題数	2/16問	7/16問	9/15問
無解答率が5%以上の問題数	2/16問	1/16問	1/15問

■ 小学校算数B

【概要】

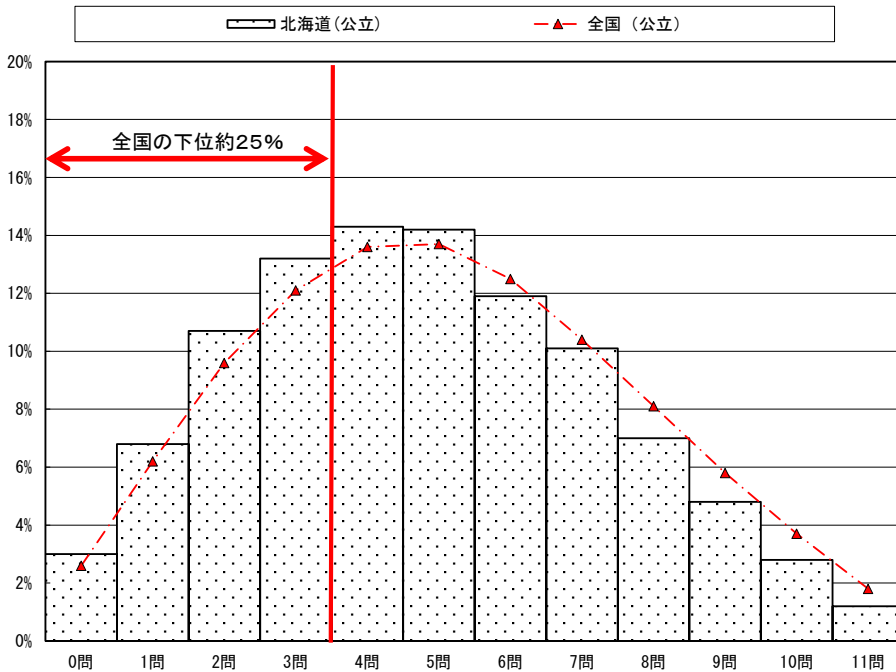
- 平均正答率は43.5%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.7ポイント（H28）から-2.4ポイントに縮まった。

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	35,794	4.8 / 11	44 [43.5]	5.0	2.5
全国（公立）	999,451	5.1 / 11	46 [45.9]	5.0	2.6

正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	3.0	2.6
1問（9.1%）	6.8	6.2
2問（18.2%）	10.7	9.6
3問（27.3%）	13.2	12.1
4問（36.4%）	14.3	13.6
5問（45.5%）	14.2	13.7
6問（54.5%）	11.9	12.5
7問（63.6%）	10.1	10.4
8問（72.7%）	7.0	8.1
9問（81.8%）	4.8	5.8
10問（90.9%）	2.8	3.7
11問（100.0%）	1.2	1.8

3問以下の割合	33.7	30.5
---------	------	------

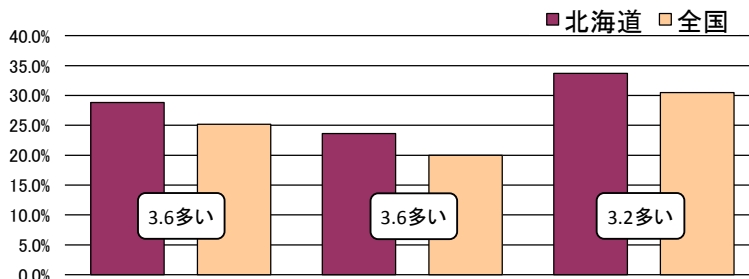
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。



● 全国の下位約25%は、3問以下の正答数（正答率は27.3%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



	H27		H28		H29	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	28.8%	25.2%	23.6%	20.0%	33.7%	30.5%
正答数	13問中 3問以下		13問中 3問以下		11問中 3問以下	
全国との差	3.6 多い		3.6 多い		3.2 多い	

同じ

- 0.4

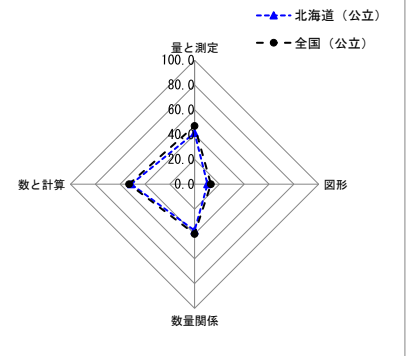
問題別調査結果 [小学校・算数B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	971	19,449		35,794	999,451

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体			11	44 [43.5]	46 [45.9]
学習指導要領の領域	数と計算	5	51.1	52.8	
	量と測定	2	41.3	47.0	
	図形	1	10.4	13.2	
	数量関係	8	37.3	40.0	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	9	42.9	45.4	
	数量や図形についての技能	0			
	数量や図形についての知識・理解	2	46.4	48.6	
問題形式	選択式	3	52.4	54.1	
	短答式	3	60.0	61.7	
	記述式	5	28.3	31.6	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）	
1 (1)	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く	示された条件を基に、適切な式を立てることができる	2A (2)ア					○				○			75.6	76.0	2.1	2.0
1 (2)	示された考えを基に、54-45の場合で残る部分を図に表す	示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる	2A (2)ア 5A (1)イ					○				○			79.4	81.8	4.9	3.9
1 (3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる	5A (1)イ		40 (2)イ 50 (2)			○				○			37.6	38.6	17.1	14.9
2 (1)	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く	料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	2A (2)ア 3A (2)イ 3A (3)イ		30 (3)			○				○			37.9	40.4	7.5	6.4
2 (2)	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる	3A (4)ア 5A (1)イ					○				○			25.0	27.4	6.6	6.0
3 (1)	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができる		58 (3)ア	40 (2)ア				○	○					64.3	67.9	1.1	1.1
3 (2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる		58 (3)ア	40 (2)ア			○				○			18.4	26.1	15.9	12.7
4 (1)	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ	示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる			40 (4)ア			○				○			37.1	39.8	5.6	4.8
4 (2)	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ	割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる			30 (3)ア 50 (4)				○	○					28.4	29.3	5.4	4.6
5 (1)	「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ	示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できる			50 (3)			○		○					64.4	65.0	6.5	5.5
5 (2)	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる			30 (1)ウ 50 (3)			○				○			10.4	13.2	10.7	8.7

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H27	H28	H29
平均正答率が全国以上の問題数	2/13問	1/13問	0/11問
無解答率が全国以下の問題数	1/13問	2/13問	1/11問
無解答率が5%以上の問題数	8/13問	5/13問	8/11問